

心とカラダが  
ピュアになれる旅へ

Pure-time

宮城・蔵王

## 銀世界で出会う生命



### 1 「宮城蔵王 キツネ村」

100頭以上のキツネが  
放し飼いにされており、  
抱っこ体験もできる。

### 2 「御釜」

円型の火口湖。澄んだ  
エメラルドグリーン  
の水面が蔵王のシン  
ボルに。

### 3 「蔵王温泉 大露天風呂」

標高900mにある大  
露天風呂。日本有数の  
強酸性の硫黄泉。

### 4 「樹氷と ロープウェイ」

ロープウェイ山頂駅  
付近に樹氷が連なる  
様子は幻想的。

### 5 「白石城」

1995年に復元され、  
「続日本100名城」に  
登録されている。



写真提供:白石市・蔵王町



弥治郎こけし  
白石市を代表する伝統工芸品。  
胴体に比べて頭部が大きく、色鮮やか。



白石<sup>ウーメン</sup>温麺  
油を使わずに作られた麺で  
胃に優しく、ほっとする味わい。



写真提供:宮城県観光課

### 「雪の壁」



写真提供:宮城県観光課

毎年4月下旬に開通する「蔵王エコーライン」。  
道路の開通に向けた除雪作業で、冬季に積  
もった雪が脇に積まれて「壁」を作る。4月中  
旬には雪の回廊を歩くイベントも開催される。

られて凍りつき、雪とくつきながら成長することで圧巻の「異世界」を作り出す。真っ白な雪山の斜面に群れを成す雪の塊は、まるで絵本の世界に入り込んだかのような。次はどんな自然の芸術に出会えるだろうと心を弾ませ、足を進める。

そして蔵王の冬の風物詩といえは、「スノーモンスター」と呼ばれる樹氷だ。

0℃以下の水滴が木の枝や葉に吹き付け

宮城県と山形県をまたぐ蔵王連峰。しんしんと雪が降り続く銀世界に、ここにしかない自然体験が待っている。

冷気が肌を刺すような日には「宮城蔵王キツネ村」で心を温めよう。100頭以上のキツネが暮らす園内では、彼らの「素顔」を間近に見ることが出来る。あたり一面の雪景色を凛々と歩く姿、ポールのように丸くなって眠る姿、仲間とじゃれ合う姿。縦横無尽な動きに、つい目が離せなくなる。ふわりとした金色の冬毛に包まれたキツネに癒やされながら、こんなに寒い中でも会える生命に、胸を打たれる。